

2019年9月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断も、2月以降の「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」との判断を継続しました。
- 需要項目ごとの動きでは、公共投資について、「下げ止まり」から「持ち直し」へ、判断を引き上げました。そのほかの項目に、変更はありません。
- この間、雇用面では、労働需給がタイトな状況を続けています。金融機関の貸出も前年を上回っています。
- 本日公表した道北地域の日銀短観（9月調査）は、全産業の業況判断DIで+21（前回比+5ポイント）と、2期連続で「良い」超幅が拡大しました。水準としては18/9月と並び、それ以来の高水準です（直近のピークは18/6月の+25）。他の判断項目では、販売価格DIの「上昇」超過が「下落」超過に転じましたが（6月+4→9月▲2）、仕入価格DIの「上昇」超幅は販売価格DIの変化幅以上に縮小しており（6月+33→9月+15）、この面からは事業採算の何某かの改善も窺われます。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、7月は、土日祝日の休日数が前年より1日少なかったものの、気温は平年より高めに推移したほか（旭川市の平均気温で平年比+1.8度、日中最高気温25度以上日数で平年比+6.8日）、降水日数は平年より少なく（旭川市の1日1mm以上の降水日数は平年比▲3.3日）、天候要因は追い風になったはずですが、前年を下回りました。8月は、逆に土日祝日の休日数が前年より2日多い一方、天候要因は降水日数が多く逆風になる中（旭川市の1日1mm以上の降水日数は平年比+6.4日。なお、旭川市の平均気温は平年比▲0.1度）、引き続き前年を下回っていま

す。前年割れはこれで 11 か月連続です。

- 7月の新車登録台数は合計で前年を下回りましたが、8月は、軽自動車でも新型車効果が強まったほか、除く軽でも前年を上回り、合計でも前年を上回りました。四半期ベースでは、4～6月期に再び前年比プラスに浮上した後、7、8月を均すと前年比プラス幅を拡大させています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、7月は、女満別、紋別空港で前年を上回りましたが、旭川、稚内空港が前年を下回り、全体でも前年割れとなりました。8月は、紋別空港を除く、旭川、稚内、女満別空港で前年を下回り、全体で2か月連続の前年比減少となりました。この間、旭川空港の国際線は、7、8月と、定期便が大幅増となりましたが、国際チャーター便等が本年はなく、結局、両月とも前年を下回りました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、7、8月とも前年を下回りました。また、旭川市内のホテル客室稼働率も、7、8月とも前年を下回りました。もっとも、市内のホテルからは、9月以降の予約は順調に入っているとの声も聞かれています。
- 各地観光施設の入込みは、7、8月、網走監獄、ウトロ温泉は両月とも前年比増加、層雲峡地区、利尻・礼文フェリーは両月とも前年比減少となる中、ウェイトの大きい旭山動物園は7月に微増、8月に微減となりました。全体では7、8月とも前年を下回っています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、7月は、3振興局とも著増となり、全体でも前年を7割方上回りました。8月はオホーツクで前年を上回りましたが、上川、宗谷で前年を下回り、全体で前年を下回りました。19/4月以降8月までの累計では、7月の著増

を受けて、3 総合振興局とも前年を上回り、全体でも前年を上回りました。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、6月、分譲が前年を下回り、持家が前年比同水準に止まったものの、貸家が前年を2倍以上も上回る著増となったことから、全体でも前年比増加に転じました。もっとも、7月は、持家が前年比プラスに復調したものの、貸家、分譲が前年を下回り、全体で前年比減少となりました。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、6月、オホーツクが前年を下回ったものの、上川が前年を上回ったほか、宗谷が前年を5倍弱上回る著増を見せたことから、3 総合振興局合計で前年をやや大きく上回りました。7月は、宗谷が前年を8割近く下回る著減となったものの、上川、オホーツクが前年を上回り、3 総合振興局合計でも前年を幾分上回りました。宗谷では、前年6月が前年比8割以上の著減、7月が同4倍を超える著増と大きく振れており、その反動が今年の数字に現れています。

■農業

- 農業は、上川では、たまねぎの生育が平年よりやや遅れていますが、水稻（うるち・もち）、大豆、小豆などは平年並み、てんさい、とうもろこしは平年よりやや早く推移しています。オホーツクでも、水稻の生育は平年並み、てんさいなどは平年より進んでいます。なお、収穫やは種については、上川、オホーツクで馬鈴薯、菜豆の収穫が進んでいるほか、秋まき小麦のは種作業が平年並みに始まっています。

■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。有効求人倍率は、6月に旭川と稚内で前年を上回り、7月も旭川と稚内で前年を上回ったほか、網走でも前年と同倍率に復したなど、高い水準で推移しています。新規求人数は、6月に4つの職業安定所とも前年を下回り、合計でも前年を下回りましたが、7月には、稚内を除き、旭川、北見、網走で再び前年を上回ったことから、4つの職業安定所を合計した新規求人数で再び前年を上回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、7、8月とも前年を上回りました。8月まで6か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 道北地域の日銀短観（9月調査）の事業計画では、2019年度の全産業の売上高（前年度比▲2.4%）、経常利益（同▲28.4%）、当期純利益（同▲3.3%）が、慎重な計画となっていますが、業況判断DIに現れた企業マインドは、6月調査からさらに明るさを増しています。注目される2019年度の設備投資も、前年度比約5割増の計画で、6月調査から若干ながら上方修正されています（6月調査：前年度比+45.9%→9月調査：同+48.7%）。
- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①予想される国土強靱化関連や災害復旧工事等の公共工事に対する、人手不足の問題を抱える建設業者の受注状況や、②日本全体の輸出・生産や企業マインド面に海外経済の減速の影響がみられる中での今年度設備投資の推移に注目しています。また、③今月より消費税率が引き上げられました。全国では、引上げの直前期を除き、前回ほどの駆け込みはみられなかつ

たと報じられることが多いようですが、今後の消費マインドへの影響についても注意して見てまいりたいと思います。

以 上